2013 9/24
No.1955
毎月第2・第4火曜日発行

政経かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—

海老名市の中新田、今泉の両地区で恒例の「かかしまつり」が行われた。会場には人気ドラマの海女をはじめ、天才物理学教授がおいしいお米の研究に没頭し、有名塾講師が食べ頃を「今でしょ」とアピールした。

神奈川新聞社

政経かながわ

2013 9/24 No.1955

contents

視点・点描 3

「生きるに値」を伝えたい

講演録 4

「東日本大震災とこれからの地震災害」

慶応義塾大学環境情報学部准教授　　大木　聖子

社会保障 8

先進医療の対象拡大急げ

混合診療全面解禁は不要

経　済 10

増える社外取締役

選任方法に課題も

くらし2013 12

外食、中食 より身近に

広告珍談 14

～うまい物がたり㉓

麦ですか？　芋？

NNAアジア経済リポート 15

事務局だより

◇**横浜定例講演会**

2013年10月3日（木）

14時～15時30分

横浜情報文化センター情文ホール

講師はヤマトホールディングス株式会社代表取締役社長の

木川　眞　氏

演題は「人と人を結ぶまごころ宅急便～クロネコヤマトの満足創造経営」

視点点描

「生きるに値」を伝えたい

市民に命の大切さを訴える取り組みが今年も繰り広げられた。9月10日の「世界自殺予防デー」である。

県内各地で街頭キャンペーンが行われ、市民ボランティアや医療関係者、自治体職員らが参加。黒岩祐治知事ら首長も率先して、声を枯らした。

横須賀市内の活動には、横須賀市議・藤野英明さんの姿もあった。ライフワークとして、長年にわたり自殺予防の推進に取り組んでいる。

藤野さんはこう呼び掛ける。「自殺の多くは『追い込まれた末の死』。大切な命を失わないためには、自殺や精神疾患について正しい知識を持ち、偏見をなくしていくことが必要」

10年前に比べて自殺が深刻な社会問題として市民に認識されるようになり、国や自治体などの対策も多く実施されている。2012年、全国の自殺者数は15年ぶりに3万人を下回り、神奈川県内も4年ぶりに減少に転じた。それでも、全国で2万7千、県内では1600を超す人が自ら尊い命を絶っている。現状はまだまだ厳しいと言わざるを得ない。

悩み、苦しむ人が示す危険の〝サイン〟を早めに気づくことや、気づいたときの対処方法などについて、たくさんの市民に、もっと理解してもらわなければいけないのではないか。

地域住民と密接に関わりを持つ神奈川の地方議員には、その先頭に立ってもらいたい。藤野さんだけでなく、横浜や相模原、平塚など県内各地で自殺予防に力を注ぐ議員の存在がある。会派や自治体の枠を超えて、しっかりとした形になる連携を図ってほしい。点と点が線になり、線と線が面になるような取り組みを促進してほしい。それが市民にも広く浸透されればうれしい。

長編アニメ映画製作の第一線から退くことを先ごろ表明した宮崎駿監督の会見で、印象に残る言葉があった。半世紀に及ぶ活動を振り返り、「子どもたちに『この世は生きるに値するんだ』と伝えるのが仕事の根幹になければいけないと思ってやってきた。それは今も変わっていません」と信念を述べたのだ。

「生きるに値する」―。宮崎さんの思いが未来を担う子どもたちだけでなく、さまざまな悩み、苦しみに追い詰められている大人たちにもぜひ伝わってほしい。

（神奈川新聞社経済部長　石曽根　剛）

麦ですか？ 芋？

居酒屋が好きだ。

気楽だから、何よりも安直だから。そこで焼酎をたのむと、麦ですか、芋ですかと聞かれる。だけどわからない、何がどうなのか知らない。と、まわりの見下げた目がボクに集中する。

つまりボクは何でもいいのだ、うまければ何でもいいのである。のんべいはうまいものを、飲みたいだけなのだ。

さてこの広告の男、シルクハットに燕尾服。やたら気取ってるのは、大正ロマンのころだから仕方ないか。高々と掲げているのは《瓶詰》の焼酎。「世界の改造」と大見得をきってるほど、瓶詰は新しい容器だったらしい。左端に気になるコピーがある。「原料は まったく米を用いず、包装に冗費を省き専ら実用を旨としたれば是れが愛飲は直に節米の実行と経済の緩和となる真に世界的好飲料也」とは、イラストの雰囲気とかけはなれているのがおもしろい。節約のため、原料は米ではないという、ならば芋なの。

字引を見ると、焼酎は日本の代表的な蒸留酒とある。誇らしいことよ。その原料は芋は芋でも、サツマイモもあれば、ジャガイモもあると。もちろん米もあれば、アワ、ソバ、キビ、ヒエ、とうもろこし、糖蜜もあるとも。

まだあった。むかしから各地方でつくられる個性的な焼酎は《乙》、近代的な設備で不純物をすべて取り除いて、純粋なアルコールを水で割ったものを《甲》。ということは広告の焼酎は甲らしいが、どうだろう。

右のつぎのコピー。「朝の一杯は優に活動的元気を喚起せしめ」だと。朝っぱらから飲めとは、アルコール依存症になるぞ。さらに右のコピー。「フーゼル油を除去せるを以て更に水にて薄め、熟して召し上がれば最も衛生的にして快味亦数倍」とはなんだろ。

またしても字引を。フーゼル油とはアルコールを発酵するとき出てくる、いろんなものの混合物。酒の香りの重要な成分とも。それを取り除いたら、ちっともうまそうでないけど。どなたかモノ知りのお方、教えてください。待ってるから焼酎、ちょうだい！

まてよ、宝焼酎醸造元　四方合名会社とある。じつは宝酒造の旧称。1842（天保13）年、万屋卯之助が京都伏見に創業。25（大正14）年、宝酒造になった。四方に宝をふりまく、まことにうれしい社名ではないか。

（美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住）

（図）宝焼酎の広告・1919（大正8）年掲出